

14

「お金をためる条件」と
「友人を失う条件」は表裏一体

もうひとつ、「その人らしさ」が如実に表れてくるものがある。お金の使い方だ。あるお金持ちがいうには、お金をためるための三か条というのがあるのだそうだ。その一、義理堅くないこと。これは、たとえば、盛り場のバーかなにかへ行つて、「また、きてね」というママの言葉を義理堅く守つて、気づけばその店の常連となっている。そのような人には、まず、お金はたまらないということか。

その二、人情に流されないこと。会社をリストラされた。転職先が見つからない。妻は夜逃げをしてしまう。もう、どうしたらいいかわからない。こんな自分かわいそうだと思つて、お願い、お金貸して……と友人に泣きつかれる。しかし、簡単にお金を貸してしまうような人には、やはりお金はたまらない、ということか。

その三、人との交際は極力避けること。これは、わかる。人とのつき合ひは、とかくお金のかかるもの。中元・歳暮の贈り物はしなければならぬし、その人の身内にお祝い事があれば、いくらか包まなければならぬ。会えば、一まあ一杯」となるだろうし、ことによつたら「今日は、おまえのおごりだぞ」ともいわれかねない。

みなさんは、さて、この三か条を遵守じゆんしゆできるだろうか。

まあ、そうはいつでも、私は、このような三か条など、おすすめしない。

これは、「お金をためる」と同時に、「友人を失う」三か条でもあるからだ。この三か条を心がけてお金をためる人は、さぞ寂しい人にちがいない。

とはいえ、お金を軽蔑するのではない。お金なんかなくなつたつて、心が充足しているからいい、お金なんて不要……というのも、ちょっと困る。

お金はよりよく生きていくための必需品である。日本という国は、よくも悪くも、お金がなくては生きていくシステムになつてしまつたのである。しかし、いくらたくさんため込んだとしても、それによつて人との関係を寂しくしてしまうのは、「悪銭」というのではないだろうか。必要なだけあればいいのである。

お金とは「いい関係」を築きたい。それは人と人との関係をあたたくする。また、お金との「気持ちのいい関係」を保つことのできる人は、人との「気持ちのいい関係」を保つこともできる人だ。